

第4章 施設規模と機能

4-1.	施設整備の基本的な考え方	38
4-2.	施設の特徴	39
4-3.	ゾーニングと動線計画	41
4-4.	諸室の配置	46
4-5.	諸室の面積や設備	48

第4章 施設規模と機能

4-1.

施設整備の基本的な考え方

施設整備の方針と内容は、基本構想で定めた7つの基本理念と4つの基本的な機能を実現するために、想定される新しい活動に対応する適切な規模を検討した上で、市民が将来に渡ってより長く安全に利用できる施設構成を検討しました。

具体的な機能と規模については、多くの市民に活用されている既存の市民文化系施設等の利用状況を踏まえ、現在の様々な市民活動が安心して継続できるとともに、新しい利用ニーズやプログラムに対して柔軟に対応できる合理的な施設計画とします。加えて、老朽化した既存施設の再編と再配置の役割を担うべく施設規模のコンパクト化を実現しつつも、各機能の相互補完や諸室の共有化を積極的に図ることで、複合化によるメリットを最大限に発揮できる空間計画とします。

また、総合計画や関連する計画などを踏まえた施設の役割と位置づけを明確にした上で、「人間環境都市」の創造を目指すまちづくりの中核施設として、市民の文化・芸術に対する関心や余暇環境への要望に十分対応するとともに、本市で育まれてきた市民コミュニティを継承し、さらに高度で創発的な文化・芸術に係る活動と交流を振興する拠点となることを目指します。

4-2.

施設の特徴

(1) 苫小牧市民のサードプレイス

市民ホールは、用があるときだけ出向くのではなく、用がなくとも足を運びたくなるプラザ（公共の広場）のような市民文化系の複合施設を探求します。市民へ十分な機会を提供することで、様々な場面で手が届きやすく、誰もがハードルを感じず、気軽に無理なく使いこなすことができることを基本とします。また、公共施設には特定の集団に限られることなく社会全体に開かれているという観点（公共性）が重要です。市民ホールでは、市民の誰もが分け隔てなく平等に参加し、活用できるとする社会的包摂の考え方を重視します。

(2) 高度で創発的な文化・芸術拠点

市民ホールは、老朽化が著しい市民会館や文化会館などの周辺施設を発展的に集約・再編し、ヒトづくり・コトづくり・マチづくりの拠点となることを目指し、次頁の4つの基本的な機能を備えます。

【4つの基本的な機能】

① 活動

市民の自主的な文化活動を支える場をつくります。市民が主体となったプログラムの企画や運営をサポートする組織とシステムを整え、市民のバイタリティ^{注12)} 豊かな力が最大限に発揮できるような設備を提供し、市民が存分に使いこなすことができる使い勝手の良い施設とします。

② 鑑賞

市民が豊かな芸術世界を堪能できる場をつくります。道内外の様々なアーティストや文化活動団体による公演を積極的に主催し、背伸びすることなく一流芸術を体感できる機会づくりを行います。市民の日頃の文化活動の様々な発表の場として活用されるのはもちろん、市民が互いに称賛し研さんし合う“観る・観られる”交流を通じて創造性を育む施設とします。

③ 展示

市民に情報ターミナルとして活用される場をつくります。文化・芸術に関する展覧会を定期的で開催するとともに、文化活動や学習活動などの様々な成果を公表することができる発信拠点とし、市民にとって魅力的な情報にあふれ、刺激的なイベントが提供される施設とします。

④ 窓口

市民からコンシェルジュ^{注13)}として頼られる場をつくります。合理的・効率的に必要な情報の提供やサービスの紹介を行うとともに、様々な出会いやチャンスへの橋渡しに取り組み、市民の活躍の機会を広げコーディネートする施設とします。

注 12) いきいきとした生命力や活力。(英語：vitality)

注 13) 顧客のあらゆる要望や案内に総合的に対応する職務を担う人のこと。(フランス語：concierger)

4-3.

ゾーニングと動線計画

(1) ゾーニング^{注14)}

ゾーニングとは、機能や用途など施設計画において必要な空間をいくつかのまとまりに区分けして整理し、それらを適切な場所に配置することを指します。ここでは、敷地全体のゾーニングについて記載し、動線計画や諸室の配置につながる建物と駐車場及びオープンスペースの位置関係を示します。

市民ホールは、劇場・ホールを有する複合施設です。劇場・ホールは、舞台上部にフライタワー^{注15)}と呼ばれる高さのある吹抜け空間や、大型トラックが行き来する搬入出口があります。そのため、ホールを配置する際には、景観上の配慮に加え、騒音や安全面の対策を踏まえた適切な配置が必要になります。

また、建設にあたっては、複合対象施設において現在行われている文化芸術活動が解体工事や建設工事等によって阻害されることなく、新しい市民ホールへと円滑に移行させる必要があります。そのため、現在の市民会館を利用しながら新しい施設を建設するといったように、段階的な施設整備を前提としたゾーニングが求められます。

これらの観点を踏まえ、次頁のポイントに基づき敷地全体のゾーニングを設定します。

注14) 施設計画において必要な空間を機能や用途でいくつかのまとまりに区分けし、それらの相互の関係を考慮して適切な場所に配置すること。(英語：zoning)

注15) 劇場などの舞台の上部に演出に必要な機材などを格納するために必要な高さのある吹抜け空間で、それがタワー状になるため、フライタワーと呼ぶ。(英語：fly tower)

① 東寄せ建物・西寄せ駐車場の配置

敷地の東西それぞれで異なる街並みが広がっています。具体的には、敷地の西側は住宅地ですが、東側は市役所や総合体育館、美術博物館などの大きな建物が連続して整備されています。そのような景観の特徴に配慮して、敷地内での建物の位置は東寄せを基本とし、さらに東側にフライタワーなど高層のボリューム^{注16)}を配置する構成をとります。

また、西側には駐車場やオープンスペースといった空地进行を配置します。特に、駐車場については西寄せを基本とします。西寄せの駐車場配置には二つの利点があります。一つは、交通量の多い北側の道路からアクセスする際に左折で駐車場に進入できる点です。もう一つは、市民会館の駐車場との一体的な利用であり、既存施設を継続して利用しながら段階的に整備を進めることができます。

② 南面におけるオープンスペースの配置

敷地の南側は、街路樹が整備された旭町2条通線やカルチャーストリートが近接しており、特に、市民会館と科学センターの間にある緑道は魅力ある歩行空間となっています。また、苫小牧東小学校の敷地には大きな樹木や全国学校・園庭ビオトープ^{注17)}コンクールで受賞したビオトープがあります。市民ホールのゾーニングにあたっては、これらの既存の緑地環境を十分に配慮し、南面にオープンスペースを配置します。また、それに加えて、旭町2条通線の一部廃道を検討し、それらの環境との連続的な屋外空間づくりを目指します。

参考：苫小牧東小学校ビオトープ

「まちなかの勇払原野」をテーマに、自噴する地下水を利用した中庭の池を中心に、平成16年から造成を開始している。これまで生態系・環境全体・生命の尊重・多様性を学習しており、四季折々の草花や生物の様子を児童に向けて紹介する「ビオトープ便り」を発行している。

注16) 建物が占める空間の大きさ。建物のおおよその規模。(英語：volume)

注17) 生物の生息場所。動物や植物が生活できる環境を造成または復元した場所のことを指す。特に学校では、環境教育の一環として整備される例がある。(英語：biotope, ドイツ語：biotop)

③ 北面における建物の後退

敷地の北側は、幅員の狭い道路が面していることに加え、ビルやマンションなどの高層の建物が立ち並んでいます。そのため、敷地北側は道路から建物を後退させることで圧迫感を軽減し、隣接地に対してゆとりある配置にします。

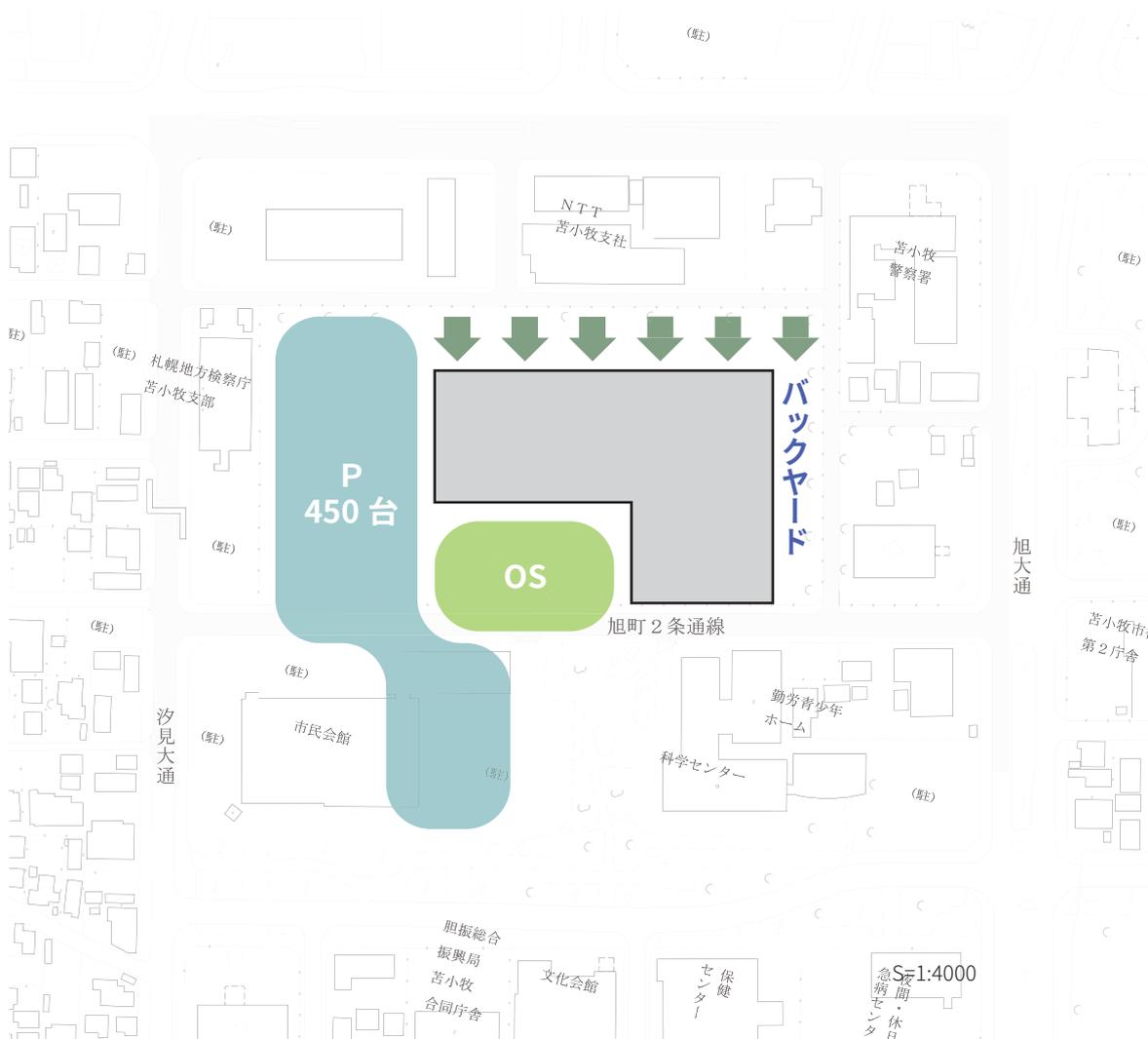


図 4-1 ゾーニング

(2) 動線計画

(1) で示した敷地全体のゾーニングを踏まえつつ、敷地周辺から施設への自動車や歩行者の動線を整理することで、高いアクセシビリティを確保し、市民の誰もが親しみやすく、気軽に無理なく使いこなすことができる施設計画を提示します。

苫小牧市は、東西に長い地理的な特徴があることから、多くの市民が自動車で日常の移動を行っています。また、複合対象施設である市民会館や文化会館では、現在深刻な駐車場不足が指摘されています。それらの状況を踏まえ、市民ホールでは十分な駐車場を設けることに加え、道路から駐車場、駐車場から施設へとスムーズなアクセスができるような動線を整備する必要があります。さらに、公共交通機関を利用するなど歩いて施設を訪れる歩行者にとっても、安全性や快適性などに配慮し、歩いていて気持ちの良い動線を整備することが求められます。

これらの観点を踏まえ、以下のポイントに基づき動線計画を設定します。

① 南面と西面を基本としたエントランス

メインエントランスは南面に設定します。それにより、敷地南面のオープンスペースをアプローチ空間として有効に活用し、安全かつ快適に施設へとアクセスすることが可能となります。また、駐車場から直接施設にアクセスできる西面にも車寄せの付いたエントランスを設け、様々な場面での利便性を向上させます。加えて、駅やバス停といった公共交通の拠点は北側に集中しているため、北面のエントランスを設けることも想定されます。施設全体のセキュリティや管理運営上の安全性を精査した上で、合理的な設計を行います。

② 安全な自動車通行

自動車での来館は、敷地北側の国道 36 号線からが主になると考えられます。室蘭方面からアクセスする場合には敷地に面した汐見大通で右折することが考えられますが、現状は右折禁止となっています。交通サインの工夫等の方法を検討し、安全で合理的な経路の確保を行います。また、札幌方面からアクセスする場合には旭大通との交差点で左折し、カルチャーストリートを通過したのちに駐車場へ進入することとします。

4-4. 諸室の配置

ここでは、建物内における4つの機能に基づく諸室の配置の考え方について記載し、市民ホールがサードプレイスとして親しまれ、高度で創発的な文化・芸術拠点となるような諸室構成を提示します。

① コラボスペースの設定

基本構想では、基本理念の一つとして「図と地」を挙げています。肖像画の人物が「図」であれば、その人物（図）はまわりの背景（地）があつてこそ映えるという例えです。この考えを施設に置き換えると、特定の機能とサービスは「図」といえます。市民ホールは、高度で創発的な文化・芸術拠点を目標として「活動」「鑑賞」「展示」「窓口」の4つの機能を核にしますが、それぞれの機能や用途の相乗効果が生まれる場として、特別に「コラボスペース」を新たに設けます。コラボスペースは、オープンスペースや4つの機能の諸室と密接な関係を持たせた配置とし、図と地のバランスが取れた市民の居場所づくりを目指します。

② 4つの機能の基本的な配置の考え方

● 建物東側を基本とした鑑賞機能の配置

鑑賞機能については、敷地の東側となる大ホール・小ホールを中心に、建物東側への配置を基本とします。また、大型トラックが行き来する搬入出口も敷地東側からとし、住宅街に対する騒音や他の交通への配慮を十分に行います。

● 建物中央を基本とした窓口機能の配置

窓口機能については、南面と西面にエントランスがあるため、建物中央を基本として配置することで建物内での目配り・気配りを高めます。また、窓口機能を建物中央に配置することで、合理的・効率的に必要な情報の提供やサービスの紹介を行うことができるとともに、市民にコンシェルジュとして頼られ、市民の活躍の機会を発展的にコーディネートすることが求められる窓口機能の役割を自然なかたちで実現することが期待できます。

● 柔軟に活動できる各機能の配置

各機能が持つ諸室の特徴を十分に考慮した上で、それぞれの諸室が特定の機能の目的のみに利用されるだけでなく、各機能の相互補完や共同・共有による柔軟性に富んだ利用ができるよう配置を工夫します。例えば、活動機能が持つ多目的な市民活動に対応する活動室といった諸室は、鑑賞機能の楽屋と兼用することが考えられます。また、展示機能を持つギャラリーは、展覧会のような利用がない場合は、市民活動の場としての利用も考えられます。複数の機能にまたがった利用が考えられる諸室の配置を十分に配慮しながら、それぞれの機能を適切に配置します。

4-5. 諸室の面積や設備

ここでは、各機能に設ける諸室とそれらの関係性を整理するとともに、それぞれの諸室が備えるべき面積の目安と設備について提示します。4-4 で示した諸室の考え方を踏まえ、第3章で提示した事業アイデアを実現するために特に重要だと考えられる事項について以下に示します。

表 4-1 面積表

機能・スペース	面積 (㎡)	諸室	備考
鑑賞	7,000	大ホール 小ホール ホワイエ 楽屋 バックヤード・搬入出口	1,200 - 1,300 席 400 - 500 席
活動	1,500	活動室 30 ㎡級 50 ㎡級 70 ㎡級 100 ㎡級 *複数のスペースを一体にして、300 ㎡級の多目的室を確保	6 部屋 (和室 1 室) 6 部屋 2 部屋 3 部屋
展示	200	ギャラリー	
窓口	300	事務室 カフェ/レストラン	
コラボ	1,000		
その他	1,000	機械室等	
延床面積	11,000		

(1) 鑑賞

① 大ホール

市民が一同に集まるハレの場としてのホール
一流芸術を体感できる高い音響性能
多様な催しへの対応と周辺自治体との利用者圏域を考慮した規模設定

全ての市民に開かれたハレの場として、高い音響性能を持ちながらも多目的な活用を見込めるホールとします。席数については、現状行われる多様なジャンルの催しを尊重しつつ、周辺市町村との圏域も考慮し、1,200-1,300席の規模とします。また、様々なイベントの規模に対応できる客席の構成とします。一流芸術を体感できる鑑賞の場としての利用に加え、成人式や市民集会などの利用にも対応できるようにし、多くの市民が一同に集まるホール特有の体験を施設全体で共有することができるようになります。

② 小ホール

日常的に文化活動に親しみながらハレの場となるホール
市民自らが使いこなせる機能性
市民の多くが多用途に利用できる規模設定

市民の多くが使いやすい規模を考慮し、400-500席の規模とします。市民の文化活動にはそれぞれに個性と特徴があります。多種多様な活動に対応でき、市民自らがホールの使いこなしを創意工夫できるような高度な機能性を追求し、様々なイベントの規模に対応できる客席の構成とします。日常的な利用に適した使い勝手を確保しながら、大ホール同様に市民のハレの場として高い性能をもったものとします。

③ ホワイエ

ホールの公演への期待感を高め共有できるホワイエ
 様々な活動の場となる居心地の良いスペース
 公演時以外の一般開放

ホールに向かう市民が期待感を持ってホワイエを移動できることはもちろん、ホールを利用しない市民も公演の期待感を共有できるようにします。また、ホワイエはエントランスとホールの上に設けられた緩衝空間でもあり、チケットのもぎりや公演間の休憩、公演前後の社交の場など、様々な活動が行われるスペースです。そのため、居場所としての心地良さも併せて重視し、ホールで催しがあるときはもちろんのこと、催しがない時も市民がくつろげ、自由な滞在ができるように工夫します。

ホワイエのイメージ

■ 検討委員会・WG での意見
■ 公開ワークショップでの意見



議論の様子（第3回検討委員会）

高層部のホワイエは、景色の良さを積極的に生かし、まちの風景を楽しむことのできる仕掛けや工夫が考えられる

プロの作家はホワイエのギャラリーで、市民の活動はコラボスペースでといった棲み分けができると良い

ホワイエやロビーで大きな机を囲んでものづくりをしたい

お金を払わなくともガラス越しに公演が見られるなど、無料でも楽しめる施設にしたい

内装を苦小牧らしくすることで誇りを持てるものにしたい

ホワイエにある小さなスペースのカフェは、公演前に気持ちを作ることができて良い



イメージ
（豊中市立文化芸術センター）

④ 楽屋

リハーサルや練習に適した防音設備
公演前後に落ち着いて過ごせる居心地の良さ
公演時以外の一般利用

大小の楽屋を過不足のないように設定し、リハーサルや公演前の練習もできるよう、防音などに配慮した十分な設備を備えたものにします。また、居心地の良さにも配慮し、自然光を採り入れるなど公演前後の市民やアーティストがリラックスして過ごすことができるよう工夫します。さらに、ホールでの催しが無い時は市民活動の場としても利用できるように配置や設計の工夫を行うことで、諸室の合理的な利用を促進します。

⑤ バックヤード・搬入出口

公演前後のアーティストや舞台技術者の動線を十分に確保します。また、楽器庫や舞台備品倉庫などの収納スペースを過不足のないよう設定します。搬入出口に関しては、側面開閉車にも対応した大型搬入車両による荷捌きが可能なものを備えます。

(2) 活動

① 活動室

これまでの活動を引き継ぎながら新たな活動を創出する規模と設備
 性質の異なる活動が互いに配慮し高め合うことのできる配置計画
 部屋の分割や一体化による柔軟な利用形態の確保

市民の創造性が十分に発揮できるような規模と設備を備えます。複合対象施設で現在行われている様々な活動が安心して維持できるようにするとともに、調理や工作、市民協働での施設運営といったこれまで複合対象施設にはなかった新たなニーズにも対応できる諸室も併せて設けます。配置については、生じる音の大小など活動の性質ごとにまとまりをつくり、それぞれの活動に悪影響が出ないように十分に配慮します。また、諸室外からの活動の見え方や音の聞こえ方などについても十分に配慮し、市民の生き生きとした活動の様子を施設全体で共有できるよう工夫します。さらに、複数の部屋をつなぎ一体的な利用を可能とする諸室を設けるなど、市民の様々なニーズや利用の目的に最大限に対応できるような柔軟性を持たせます。備品や市民の楽器・機材などをしまふ収納スペースを過不足なく設けるとともに、それらの収納の仕方にも工夫を施すことで市民の創作意欲をかき立てるようにします。

活動室のイメージ

■ 検討委員会・WG での意見
 ■ 公開ワークショップでの意見

ダンスであればリノリウムの床、楽器であればピアノや防音といったように、活動によってカスタマイズできる活動室が良い

高齢者のセカンドプレイスとして、ボランティアなどの取組があると良い

音楽室の壁を開くと外とつながって屋外コンサートができるが良い

楽器を施設で自由に貸し出す町ぐるみのシステムがあると若い市民の興味や技術の向上につながる

活動室の使われていないスペースを他の団体も使えるように区切ることができるようにする

部屋の外からのぞいて活動の様子が見えると、施設利用者の興味を引いて様々な活動への参加を促せる

100人くらい入れるような練習室やスタジオで楽器の練習をしたい



イメージ
(宮代町立コミュニティセンター・清修館)

(3) 展示

① ギャラリー

幅広い展示手法への対応
搬入出の動線や作業スペースの確保
他の活動との積極的な連携と情報発信の拠点

平面作品のみならず立体作品やパフォーマンスアート^{注18)}など、文化芸術に関する様々な展示に対し柔軟に対応できるようにします。搬入出口の動線や準備室、収蔵庫の確保についても十分に配慮し、使い勝手の良いものとしします。また、郷土の歴史や複合対象施設にある貴重な備品が展示されるなど、アーカイブ^{注19)}としての展示空間についても工夫を施します。さらに、他の機能や諸室との連携を積極的に考慮し、様々な活動やそれらの成果を発信できる拠点として機能できるよう配慮します。

(4) 窓口

① 事務室

施設の顔となる市民のための窓口スペース
職員が生き生き働くことのできる執務空間
職員と利用者が親しみやすく居心地のいい雰囲気を感じてもらう工夫

市民ホールを管理運営していくために必要な規模と設備を設けます。コンシェルジュやコーディネーターといった市民のための窓口機能として求められるスペースはもちろんのこと、職員の執務空間についても十分に配慮します。職員が生き生きと仕事ができ、さらにその様子を市民も感じ取ることができるよう工夫し、施設全体を親しみやすく居心地の良いものにします。

注 18) 芸術家自身の身体、もしくは人々の動きが作品を構成する芸術。(英語：performance art)

注 19) 記録保管所の意味で、これまでの貴重な資料、備品などを集めて整理し保存すること。(英語：archive)

② カフェ／レストラン

非日常の体験による期待と余韻に浸る場
 何度も訪れたい日常の憩いの場
 市民による企画や使いこなしへの対応

ホールでの催しなど非日常の出来事に対する期待や余韻に浸ることができ、一方で日常生活の延長上に憩いの場としても滞在することのできる、「ハレとケ^{注20)}」双方の体験にバランス良く対応できる規模と設備を設けます。市民のサードプレイスとして施設全体が機能するためにも、景色の良さといったその場の居心地はもちろんのこと、そこに至るまでの体験も併せて配慮し、何度でも来たいような場とします。また、食事とセットになった企画や催し、市民自らによるチャレンジショップ^{注21)}や日替わりで市民がスタッフとなるレストランなどにも柔軟に対応できるよう配置や設計の工夫を併せて行います。

カフェ・レストランのイメージ

■ 検討委員会・WG での意見 ■ 公開ワークショップでの意見

カフェと展示スペースやコラボスペースが一体的に利用できるようになれば、カフェの使い方の幅が広がり、より多くの活動が行われるようになると思う



イメージ
(台中国家歌劇院)

苦小牧市内で活動しているものづくり作家の展示や販売ができると作家は活動の幅が広がり、市民は興味を持てていると思う

期間限定の飲食店や、販売する品物が季節によって変わるお店があると良い

苦小牧は働き世代の大人がちょっと休みたいと思った時の居場所がないので、そういうところをつくってほしい



議論の様子（第3回ワークショップ）

公演前後・合間に訪れることができ、余韻に浸れる高級感のあるカフェが欲しい

コンビニや自動販売機で飲み物を買うようなカフェがあると気軽に立ち寄ることができる

注 20) 儀礼や祭などの非日常の出来事を「ハレ」といい、例えば、公演や発表会などはハレの場となる。対して、日常を「ケ」といい、特別に予定がなくともついでに利用するなど普通の生活の延長であるケの場としても利用されることを目指す。

注 21) 商売などを始める際に経験や資金がなく、独立店舗での開始が困難な人に対し、家賃や管理費などを一定期間補助し、店舗を貸し出す制度。チャレンジショップを機とした独立開業を支援し、地域に根付く商店を増やすため、全国で実施されている。(和製英語)

(5) コラボスペース

異なる機能や用途の相乗効果を促すスペース
 人と人との豊かな関わりを生むデザイン
 無目的利用や気軽な滞在を楽しめるレイアウト

異なる機能や用途の相乗効果が適正かつ効果的に生じるように、コラボスペースで行われる様々な活動の同居や周辺の諸室との関係性について配慮します。特に、利用者同士の目線や距離感といった人と人との豊かな関わりを生む空間デザインを重視します。また、音の広がり方や活動の見え方などを上手くコントロールしながら、複数の活動が同時に行われる場合も、それぞれの活動に齟齬が生じることをないようにします。さらに、図書スペースの配置や家具のレイアウト^{注22)}などを工夫し、無目的利用や気軽な滞在を促します。複数人の利用はもちろんのこと、一人の利用であっても居心地良く滞在できるよう配慮します。

コラボスペースのイメージ

■ 検討委員会・WGでの意見

■ 公開ワークショップでの意見

苦小牧にはゆっくり滞在できる場所が少ないので、複数人で会話ができることはもちろん、1人でゆっくり過ごせる場所があると良い



イメージ
(太田市美術館・図書館)

様々なイベントの情報を
知る掲示板があると良い

中高生はフリースペースに食べ物を持ち込み、大人はカフェで過ごすなどの棲み分けができると良い

壁越しに他団体を覗くことができれば交流につながるだろう

どこで何をやっているか、市内の活動が一挙にわかる施設となると良い

労働福祉センターで行われている確定申告のついでに文化芸術活動の情報を知ることができる

展示室の前でものづくりをすれば、作業の様子と作品が同時に見え、人々の関心を集めることができる



議論の様子 (公開ワークショップ)

中高生の送り迎えの際に、親が練習の様子を鑑賞できたり、親子で会話や一休みできるスペースがあると良い

注 22) 家具などの配置。(英語 : layout)

(6) オープンスペース

全ての市民に開かれた豊かな空間
 散歩や休憩がてらに訪れたい工夫
 四季の変化を最大限に享受できる積極的な外部空間デザイン

豊かな地の空間として、世代や属性に関わらず全ての市民に開かれた魅力的なおおらかな場とします。文化芸術活動に関心がなくとも訪れたい工夫を施し、特別な目的がなくとも散策し休憩できるようにします。特に、積雪寒冷地における外部空間をより積極的に捉え、限られた夏の期間を楽しむことのできるテラスや、雪が積もれば子どもの遊び場になる築山など、四季の豊かな変化を最大限に享受できるようにします。

オープンスペースのイメージ

■ 検討委員会・WG での意見 ■ 公開ワークショップでの意見

苦小牧は雨が降ると子どもを遊ばせられるところが減るので、雨が降っても遊べる場所が欲しい

施設で植物を育て、それが工作・展示へとつながるといったように、長期間にわたるプログラムがあると良い

屋外で演奏会などを企画できるオープンスペースが良い



イメージ
(可児文化創造センター)

苦小牧は子どもが自由に遊べるところが少ないので、そういう遊び場がほしい

施設内だけでなく、施設外にも日常的に展示物が置いてあり、それらを自由に鑑賞できる仕掛けがあったら良い

苦小牧は冬場に出かけられるところが少ないので作ってほしい



議論の様子(公開ワークショップ)

オープンスペースから活動室で行われている練習の様子や演奏の様子が見えたら、新しいことに興味がわくかもしれない

(7) 駐車場

大ホールで最大規模の公演があった際にも過不足なく駐車場が利用できるようにします。具体的には、以下の算出方法に基づき、最低限 450 台程度を確保します。また、それに加え、現在の市民会館を解体した後に跡地を駐車場にするなど、新しい施設での利用状況に応じて柔軟に駐車スペースを増やすことができますようにします。

$$\begin{aligned} \text{駐車場台数} &= \frac{\text{最大来場者数 (1,300 人)}}{\text{平均乗車人数 (1.6 人 / 台)}} \times \text{自動車利用率 (52.4\%)} \\ &= 425.75 \text{ 台} \end{aligned}$$

平均乗車人数：「水戸市新たな市民会館整備基本計画」における

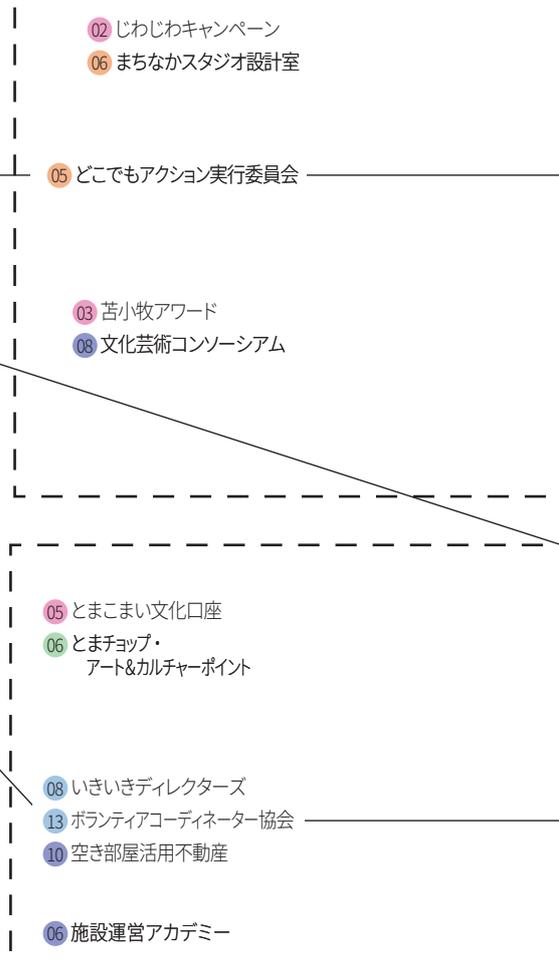
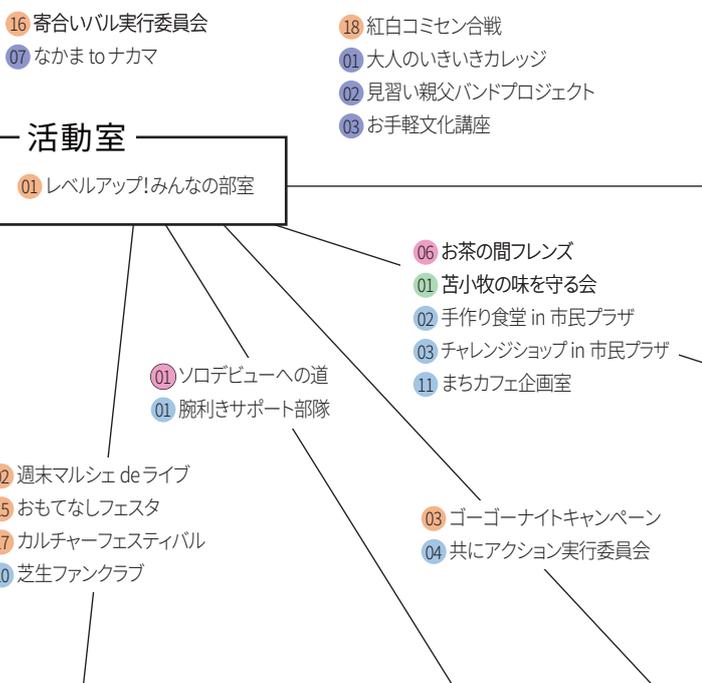
「平成 25 年度名古屋市実態調査結果」の自動車利用率

自動車利用率：「新しい市民ホール建設に向けたアンケート（平成 28 年 6 月実施）」

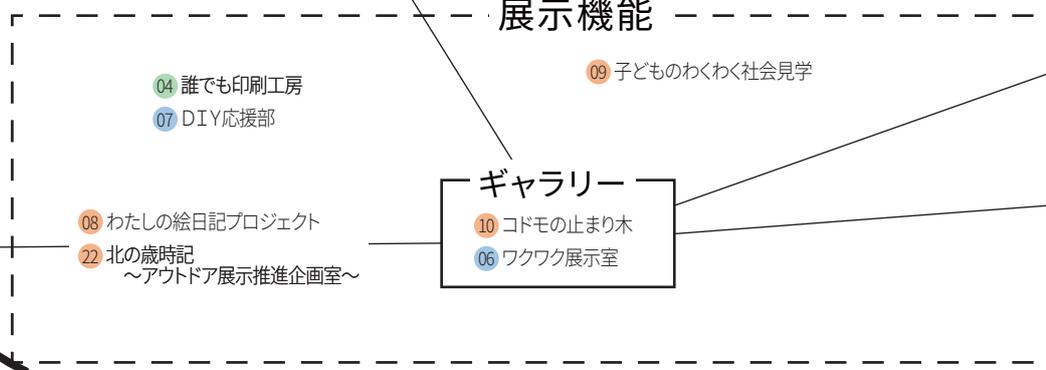
における市民会館への主な利用交通手段の自家用車割合（資料編 p.102 参照）

コラボスペース

活動機能



オープンスペース



諸室の面積や設備

図 4-3 空間構成コンセプト

